

里海学びの講座 開催しました！

全4回



■ 第1回

平成28年11月25日(金) 18:30~20:30

■ 会場 香川大学研究交流棟6F 第1講義室

■ 講師 香川大学名誉教授 丹羽 佑一 氏

11月25日(金)に、里海学びの講座第1回が開催されました。

はじめに、香川県環境管理課職員より「里海づくり概論」と題し、香川の海が抱える5つの課題や、里海づくりの概要について説明がありました。

つづいて、香川大学名誉教授丹羽佑一氏による「原始古代の瀬戸内の海運」というテーマで講義が行われました。

二条山(大阪と奈良の県境)で発見されるなど、縄文時代の香川金山(かなやま)産のサヌカイトが広く流通していた理由の考察について、実際に金山で発掘調査した結果をもとにお話いただきました。また、中四国各地に金山産サヌカイトが分配される際に、村ごとへ分配が進むにつれて石器として使いやすいように石核の厚みが薄くなっていく様子が見られるなど、当時の流通システムの様子についてもお話いただきました。

■ 講義の様子





■ 第2回

平成28年12月2日(金) 18:30~20:30

■ 会場 香川大学研究交流棟6F 第1講義室

■ 講師 高松高等学校教諭 山本秀夫 氏

12月2日(金)に、里海学びの講座第2回が開催されました。

高松高等学校教諭山本秀夫氏を講師に迎え、『海の道』をあるく～近世瀬戸内の島々の廻運と漁業を中心に～』というテーマのもと、近世瀬戸内の海運に関わる地域史を学びました。

「海難」と「海運」、「西廻り海運」と「塩飽廻船」、「漁業」と「漁撈」—直島の鯛網漁を見つめる—、「塩飽諸島をあるく～「塩飽廻船」を求めて～」のサブテーマごとでお話いただきました。

■ 講義の様子



「海難」事故を証明する唯一の重要書類である「浦証文」を読み解いたり、年貢米などを輸送するのに活躍した塩飽廻船のお話や、当時の文献史料から直島の鯛網漁の様子について学びました。また、本島・牛島・広島を塩飽廻船のこん跡をたどるために、実際に先生が巡られた様子を多くの写真を用いて説明くださり、皆さん興味深く聞いていました。



■ 第3回

平成28年12月16日(金) 18:30~20:30

■ 会場 香川大学研究交流棟6F 第1講義室

■ 講師 徳島文理大学文学部教授 橋詰 茂 氏

12月16日(金)に里海学びの講座第3回が開催されました。徳島文理大学文学部教授橋詰茂氏を講師に迎え、「石がつなぐ瀬戸内の島と大坂城」というテーマで講義が行われました。

「大坂城築城と瀬戸内の島々」、「江戸時代初期の小豆島」、「石丁場の開拓と石の輸送」、「築城後の石の存在」のサブテーマごとにお話いただきました。

つづいて、残された石の声(残念石)と島々の石文化についてお話いただきました。

■ 講義の様子



小豆島の石丁場の開拓と石の輸送について、石丁場を求める諸大名と石丁場を支配する小堀氏に関する当時の資料を読み解いたり、小豆島の石丁場で実際の調査した際の様子についてもお話いただきました。受講者からは、石を運んだ船の大きさや、なぜ小豆島の石が大坂城に使われたのかといった質問が出ていました。



■ 第4回

平成29年 1月14日(土)9:30~12:30

■ 会場 瀬戸内海歴史民俗資料館

■ 講師 瀬戸内海歴史民俗資料館館長 田井 静明 氏
大阪市立自然史博物館学芸員 石田 惣 氏



1月14日(土)に、里海学びの講座第4回が開催されました。

まず、講師の瀬戸内海歴史民俗資料館田井館長より「瀬戸内海の海の文化総ざらい」と題し、館内の展示解説をしていただきました。鯛網漁の実物の船や瀬戸内海で伝統的に行われた漁具の説明、ヤマアテの話など皆さん興味深く聞いていました。

つづいて、大阪市立自然史博物館学芸員石田惣氏より、館内で開催している「イチ押し！瀬戸内海の自然トピックス」巡回展の展示解説をしていただきました。昔は、塩田の害虫として知られていたオオツノハネカクシは、塩田が少なくなった今絶滅危惧種に指定されているお話や、瀬戸内海の丸亀で行われているマテ突き漁のお話など、詳細な展示物の説明に、受講者の方から次々と質問が出る程熱心に聞き入っていました。

さらに、石田氏の講義として、イギリス海洋調査船チャレンジャー号が瀬戸内海で採取した海洋生物・植物の解説や、瀬戸内海で特徴的かつ「絶滅が危惧」される貝漁についてお話いただきました。

最後には、里海学びの講座の講義内容をクイズ形式で振り返りました。14名の方が修了されました。

■ 展示解説と講義の様子

